地域公共交通の再構築による新たなネットワーク
―街なかサロンの創出に向けて―

金田　綾子

大正大学 地域構想研究所 最上支局
（山形県最上町）

1. バス運行の最上町の現状と課題

最上町では、町営バスの利用者が減少している傾向にあるが、その理由として、高齢者や身障者等の交通弱者とされる方々にとって、バス停留所までの移動が大変であることと、運行ルートの便数が足りないことなどが考えられる。そこで町では、利便性の向上を図るために、長年の政策課題である「デマンド交通」の導入に向けて準備を進めてきた。そしていよいよ令和元年度の３月より一部のルートを、路線方式によるバス運行から予約制乗合バス（デマンド型）に移行することに決定した。

これによって、事前の電話予約による利用が必要になり、予約センターの整備が必要となってきた。

2. 予約センターの機能

デマンドシステムは高齢者等の外出支援を目的とするものである。単に人を運ぶだけでなく、他のサービスを付加させたシステムとして、最上町らしい方式を確立することが、予約センターの機能として求められる。町行政だけでなく関係団体・機関との協働関係で進めることになり、「最上町高齢者等の外出支援を考える会」を設置した。

3.「最上町高齢者等の外出支援を考える会」

「最上町高齢者の外出支援を考える会」は、筆者が副理事長を務める「NPO 法人アルカディアもがみ」、「最上町社会福祉協議会」、「もがみ南部商工会」、「株式会社まちプランニングもがみ」といった団体で構成されている。

会の目的は、高齢者等を中心にした外出支援に向けて調査・検討会議を行い、現在町が進めているデマンド交通システムとの連携・協働に資することであり、ここで検討された事項の一部を、予約センター機能のあるべき姿に取り入れることである。

外出の機会が一日あたり一回以下の高齢者は、毎日外出している高齢者に比べて、歩行障害のリスクや認知機能の低下のリスクが高いことが、研究機関の調査により実証されている。

高齢者等の方が外出を控える理由としては、上記以外にも「外出をサポートしてくれる人がいない」「魅力ある外出先が少ない」等が挙げられる。

こうしたことから、外出したくなる環境づくりや、居場所の整備を伴う場の提供が、予約センターには求められているのである。

NPO 法人アルカディアもがみの事務所（みんなの家）がちょうど街なかに位置していることもあり、予約センターの業務を担うべく、関係団体と協議を進めている。現行の具体的な活動・検討協議事項としては、次のようなことが挙げられている。

① 予約センター内での待ち時間をどう過ごすか
※軽食を提供するカフェ機能をもたせるか
② 買い物支援の一助として、予約センター内に商品の陳列や移動販売ができないか
③ 健康応援店が年金支給日に開催する「青空市」、又はマルシェのような場を予約センター内に設けられないか
④ 街なかの居場所づくりとして、ふれあいサロン（囲碁や将棋、健康相談等）を設けられな

いか

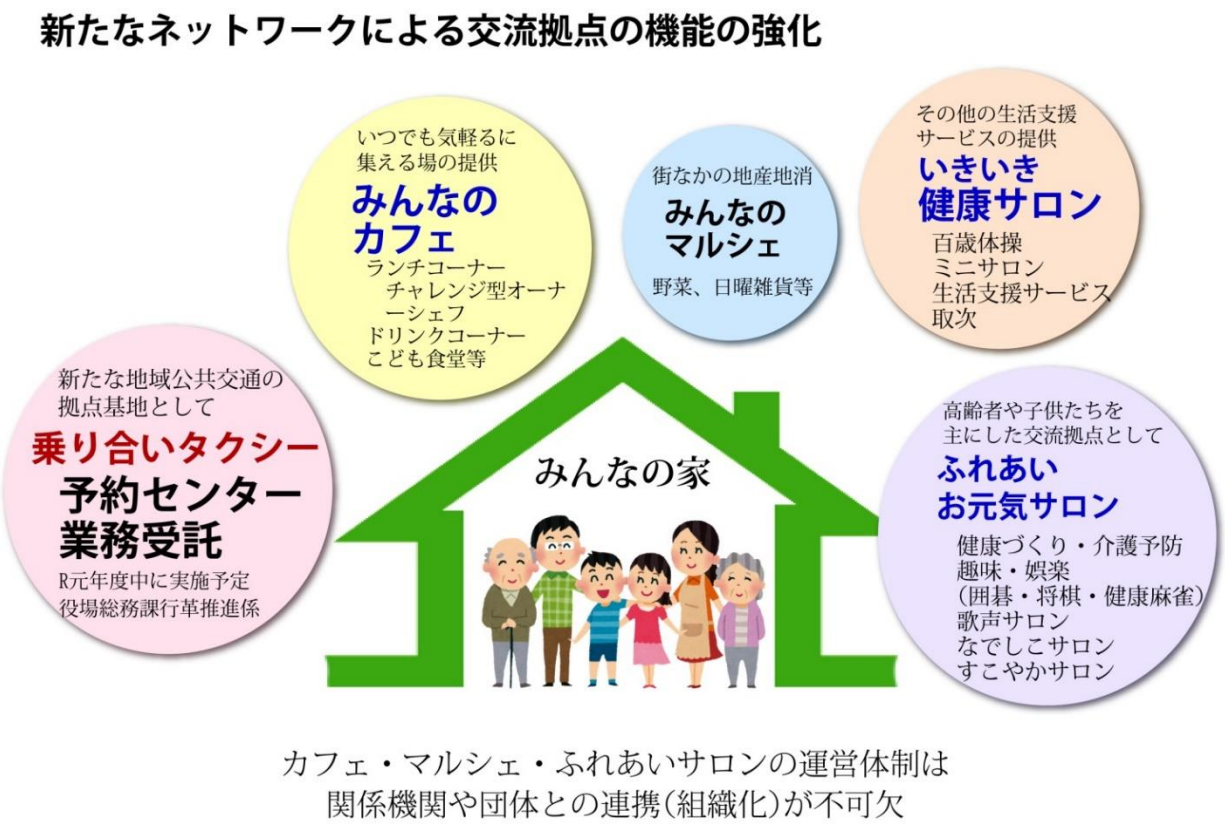
⑤ 高齢者だけでなく、学童保育を受けていない小学生や中学生、高校生等の利用も必要ではないか

⑥ これらを四者の団体がどのように役割分担をしていくか

今後、以上のことを検討しながら、NPO 法人アルカディアもがみが予約センターとしての機能を受託する方向で、町との協議を進めていく方針である。

次年度の目標としては、街なかサロンの機能強化を図りながら、高齢者の居場所づくりを関係団体と連携して進めていくつもりである。

以上



カフェ・マルシェ・ふれあいサロンの運営体制は
関係機関や団体との連携(組織化)が不可欠